

認定・専門理学療法士 指定研修カリキュラム シラバス

— 目次 —

認定・専門理学療法士 指定研修カリキュラム一覧	2
1 医療安全学：医療倫理	3
2 医療安全学：医療安全管理	3
3 医療安全学：理学療法管理	4
4 医療安全学：感染管理	4
5 チーム医療論(タスクシフト／シェア含む)	5
6 相談・指導	6
7 認定・専門理学療法士の役割 —科学と政策提言—	7
8 医療面接	8
9 臨床推論	9
10 運動学習	9
11 人事管理・労務管理・職場コミュニケーション	10
12 足病変予防の理学療法(共通編)	11

認定・専門理学療法士 指定研修カリキュラム一覧

※指定研修カリキュラムは、本会作成のeラーニングでご受講ください。

科目名	
必須科目 (12コマ) ● 1コマあたり90分 ● 12コマ全ての履修を 修了要件とする。	1 医療安全学：医療倫理
	2 医療安全学：医療安全管理
	3 医療安全学：理学療法管理
	4 医療安全学：感染管理
	5 チーム医療論(タスクシフト/シェア含む)
	6 相談・指導
	7 認定・専門理学療法士の役割 —科学と政策提言—
	8 医療面接
	9 臨床推論
	10 運動学習
	11 人事管理・労務管理・職場コミュニケーション
	12 足病変予防の理学療法(共通編)

1

医療安全学：医療倫理

概要／ねらい

実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した理学療法を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。

単元	項目	履修する内容
1	1) 医療倫理の理論	倫理とは、医療倫理とは何をどのように考えたら良いか、また、倫理指針やガイドラインの解釈について、歴史的背景を踏まえて理解する。さらに医療倫理の四原則とその問題点、ケース検討を行う際に使用される方法論について整理し、理解する。
	2) 医療倫理の事例検討	臨床現場で倫理リスクに気づいたとき、あるいは倫理的問題が発生したとき、理学療法士としてどのように対応すべきかを学習する。意思決定支援と合意形成の関係などの基礎知識を整理した上で、倫理的合意形成の考え方について、事例を通して理解する。

2

医療安全学：医療安全管理

概要／ねらい

医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、理学療法士および他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。なお、労務・職場管理は除く。

単元	項目	履修する内容
1	1) 医療管理の理論	医療管理の基本は、患者の自然治癒力を高めるために療養環境を改善することにあった。医療管理（学）の歴史的背景に触れつつ、重要性が高まってきている現在の医療管理は、病院管理にとどまらず、医療機関外の制度・政策への依拠や医療機関連携が求められてきた。それら一連の流れについて理解する。
	2) 医療管理の事例検討	チーム医療の必要性、患者の権利や質の改善への要求など、医療を取り巻く環境の変化から、医療管理の重要性が高まってきている。医療安全学における医療管理としての組織管理・リスク管理（体制管理）としてのマネジメントについて理解を深める。
2	1) 医療安全の法的側面	1999年におこった医療過誤を機に、それまでは「医療事故は個々人の注意で防ぐことができるもの」から「人は誰でも間違える。医療事故は起こりうる。だからチームや組織全体のあり方を改善しなければ防止できない」との見方へ変わり、医療法などの法律のもと医療安全施策がなされるようになった。それらの法的な側面について理解を深める。
	2) 医療安全の事例検討	医療事故を防止するためには、安全管理体制を確立させる必要がある。その体制構築のための具体的施策として、業務の見直しや標準化、内部監査体制の構築、職員教育・訓練の徹底、コミュニケーション活性化などがある。それらの方法について理解を深める。

3

医療安全学：理学療法管理

概要／ねらい

本邦の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや理学療法のあり方を理解する。また、実践の場において質の高い理学療法サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて理解する。

単元	項目	履修する内容
1	理学療法の質保証	1) 理学療法の質保証の理論 内部評価と外部評価を整理した上で、管理者にとって必要な内部評価について理解する。具体的には、理学療法の質保証としてのPDCAサイクルやペイ・フォー・パフォーマンス (P4P)、ネット・プロモーター・スコア (NPS) について理解する。さらに、部門の質保証の手法としての目標管理、社会情勢や地域ニーズを考慮したSWOT分析、事業ポートフォリオマネジメントを理解する。
	2) 理学療法の質保証の事例検討	理学療法の質保証としてのコミュニケーションスキルの考え方や、バランススコアカード (BSC) による目標管理について理解する。具体的には、コミュニケーションスキルの方法とスキル、BSCの概要と特徴および活用の仕方について理解する。また、理学療法サービスの被提供者が求める要因分析や民間病院における質向上に関する取り組みについて理解する。
2	リスク管理	1) リスク管理の基礎 理学療法におけるリスクマネジメントの考え方を理解した上で、その基礎として、マネジメントプロセス、リスク管理に関する基礎理論、初期対応と報告、予防とそれに関連した環境整備などについて理解する。さらに、民間病院におけるリスク管理に関するいくつかの取り組みとその効果について理解する。
	2) 機器の安全管理	医療機器に関連する法規や規定などを供覧し、その概略ならびに医療機器管理の定義、管理責任や運用管理、品質マネジメントなどについて理解する。また、理学療法部門として実施可能である日常的な機器の取り扱いや管理の実践について、民間病院での取り組みを理解する。それらを知ることで、日々の実践方法やそのアイデアを想起する。

4

医療安全学：感染管理

概要／ねらい

診療現場において配慮すべき感染症についての知識を整理・理解し、具体的な感染対策の実践方法を習得する。

単元	項目	履修する内容
1	感染管理の理論	1) 感染管理の理論 感染関連法規 (医療法など) を知る。医療関連感染 (院内感染) 対策について平成26年課長通知より感染制御、ICT、アウトブレイクについて理解する。感染管理プログラム、標準予防策、感染経路別予防策の基本を理解する。
2	理学療法における感染管理	1) 感染管理と理学療法 医療関連感染微生物について学習する。多職種連携 (ICT) と理学療法、標準予防策具体例と理学療法 (PPE、環境整備、ゾーニング例、器材、汚染リネン)、易感染症例、吸引時の注意点を理解する。スタッフ感染時の対応・対策、実習生への指導のポイントや注意点について理解する。
	2) 感染管理の実践方法	実践動画や写真から手技を学習する。具体的には、個人防護具 (ガウン・エプロン、サージカルマスク、N95、ゴーグル・フェイスシールド、キャップ、手袋) の着脱方法、手指衛生方法：手洗い・速乾性擦式消毒薬、環境整備、訓練室ゾーニング例、嘔吐時の環境衛生対応について理解する。感染者への理学療法介入方法を実践例をもとに理解する。

5

チーム医療論(タスクシフト/シェア含む)

概要/ねらい

質の高い医療・理学療法の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、他職種協働の課題および集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。

単元		項目	履修する内容
1	チーム医療の理論	1) チーム医療の理論	患者を中心とした、質の高い医療を提供するためのチーム医療の推進について、日本の社会保障制度で求められている姿やこれまでの政府の議論を中心に、チーム医療の理念を含めて理解する。また、理学療法の効果的・効率的な提供などに繋がるチーム医療の理論について理解する。
		2) チーム医療の事例検討	現在、本邦の医療制度で実践されているチーム医療の取り組みのうち、とくに理学療法士に関連の深いものについて理解する。また、今後の社会保障の課題を踏まえ、理学療法士の取り組みとして実践されるべきチーム医療の事例について理解する。
2	他職種協働の課題	1) 他職種協働の実際と課題	他職種協働の課題について、「医師を中心とした他職種協働のチーム医療」の視点から、医療安全と医療専門職の高い知識と技術の必要性を踏まえ、理解する。また、チーム医療推進協議会の取り組みや、医療制度の取り組みなどから、他職種協働の実際と課題について理解する。
		2) リーダーシップ	患者中心のチーム医療を実践するにあたり、多数の医療専門職種などで構成されるチームの目標を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。また、患者や利用者、その家族のために医療の効果を最大限に引き上げる方法について理解する。

6

相談・指導

概要/ねらい	<p>【相談】対象および組織内外の理学療法士や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える理学療法が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。</p> <p>【対人関係】実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。</p> <p>【助言・指導】対象および組織内外の理学療法士や他職種などに対して助言・指導を行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える助言・指導が必要となる場合には、自ら支援や助言・指導を受けることの重要性について理解する。加えて、組織内外の理学療法士に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。</p>
--------	--

単元		項目	履修する内容
1	相談	1) コンサルテーションの概念	コンサルテーションとは、異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助のあり方について話し合うプロセスである。困難な問題に直面している相談者に、その問題や課題を評価・整理し、解決に向けて相談者の力量を引き出すための支援を行うコンサルテーションについて理解する。
		2) コンサルテーションの方法	コンサルテーションは複数の専門家がそれぞれの分野や立場から行う。そのプロセスを、アセスメント、問題の発見、実行、評価とフォローアップの4段階に分けて理解する。加えて、コンサルタントの役割と能力について理解する。
2	対人関係	1) 対人関係論	対人関係論はアメリカの精神科医 H.S.サリヴァンによって提唱された理論であり、人間は対人関係によって目的や行動が変わり、それらを観察することによって人間性を理解することができるという一連の思想であることを理解する。関連するアドラー心理学についても理解する。
		2) コミュニケーションスキル	コミュニケーションは相互のものであり、また、大きく2つの手段「言語」「非言語」があるので、4つに分解することができる。そのコミュニケーション能力を構成する4つのスキルと、そのスキルを高める方法を理解する。
3	助言・指導	1) 生涯教育	生涯学習とは、人々の生涯にわたる学習を支える教育構造全般の働きをいう。1960年代に社会の変化の加速化と科学技術の革新、さらには平均余命の延長と余暇の増大から生涯教育あるいは生涯学習として概念化され社会政策として取り上げられるようになった。それら一連の流れについて理解を深める。
		2) 成人学習者への教育	社会の変化の激しい現代において、社会人となった後も、新たな知識や技能、教養を身に付ける必要がある。文部科学省は、関係省庁と連携し社会人の学びを推進していくとしている。理学療法士となった後に現場で相談・指導を行う際の知識や方法論について事例をもとに理解する。

7

認定・専門理学療法士の役割 —科学と政策提言—

概要/ねらい	理学療法士の社会的責務を果たすため、医学研究や医療倫理の変遷や背景について理解する。また、科学的根拠に基づき、エビデンスレベル、推奨度ともに高い理学療法を提供できるように理解を深める。また、理学療法実践に関わる主要法令や行動指針について理解する。臨床データ(症例報告含む)に基づく学会発表・論文作成の実践方法を習得する。さらに、理学療法実践に基づいた研究成果によって得られた政策的インプリケーションを提言できるように理解を深める。
--------	---

単元	項目	履修する内容
1 根拠に基づく 理学療法 (EBPT)	1) EBPTのステップ	EBPTは、患者の臨床問題に対して、患者の問題の明確化、質の高い情報の効率的収集、情報の批判的吟味、情報の患者への適応、適応結果の分析のステップを踏みながら最適な臨床判断を行う一連の行動様式である。質の高い理学療法を実践するためには、エビデンスだけを重視するのではなく、理学療法士の臨床経験、患者の意向も含めて臨床実践する重要性を理解する。
	2) 学会発表・論文作成の実践	臨床研究の実績として、理学療法士のキャリア形成に大きく関係する学会発表、医学論文作成の実践について理解する。学会発表は、プレゼンテーション基本、スライド作成のコツなどについて、論文作成は、Abstract(抄録)、Introduction(序論)、Methods(方法)、Results(結果)、Discussion(考察)の執筆ポイントについて学習する。
2 理学療法 ガイドライン	1) 理学療法診療ガイドライン	2021年に改訂された、「理学療法診療ガイドライン」では、臨床場面で重要度の高い臨床課題(Clinical Question)を取り上げ、専門家としての意見をまとめたステートメントで構成されている。推奨グレードの決定や策定手順を理解するとともにガイドラインの使用法を理解する。
	2) 理学療法教育ガイドライン	昭和41年に「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が制定され、現在まで4回改正されている。平成30年の改正では、総単位数増加、教員や臨床実習指導者要件が改められた。「教育ガイドライン」は平成22年に協会から発行され、卒前の到達目標やコアカリキュラムについてまとめている。指定規則改定や教育ガイドラインの趣旨について学習するとともに臨床実習のあり方を理解する。
3 政策提言	1) 研究成果に基づく政策提言	理学療法士が介入することで筋力、動作能力といった指標だけではなく、在宅復帰率や実績指数など社会的な指標を意識して、効果を出していく必要性を理解する。理学療法士の介入によってこれらの指標をいかに改善できるかを示していくこと、また、理学療法士の専門性を発揮し、国民福祉・公共政策への提言に繋がる基礎・臨床研究の重要性とともに政策が形成される過程について理解する。

8

医療面接

概要／ねらい

医療面接の基本となる理論と方法を学習し、医学的側面としての病歴聴取、臨床推論にとどまらず、患者のナラティブを引き出し、好ましい治療者・患者関係を構築するプロセスを理解する。

単元		項目	履修する内容
1	医療面接の理論	1) 医療面接の理論	医療面接の3つの役割(患者理解のための情報収集、信頼関係の形成、患者教育と治療への動機付け)を理解した上で、それらを統合したコミュニケーションについて理解する。医療者の基本的態度として、患者の訴えに対して傾聴・受容・共感を示す必要性を理解する。
2	医療面接の方法	1) 医療面接の方法	開放型質問や閉鎖型質問など、質問法の違いを理解する。患者の解釈モデルと、それに基づく受療行動を把握して、患者のニーズにあわせた対応を理解する。患者の示す感情に対して、正当化や反映、尊重などのコミュニケーション技法を用いて、良好な信頼関係を構築できる方法について理解する。
3	医療面接の実際	1) 病歴聴取における医療面接	患者理解に役立つ情報を遺漏なく収集するために、部位・性状・程度・経過・状況・増悪緩和因子・随伴症状について体系的な病歴聴取を理解する。患者の曖昧な訴えに対して、医学的な評価を正しく行うために必要な情報を、明確かつ具体的に収集する方法を理解する。
		2) 医療面接と身体診察(フィジカルアセスメント)	医療面接と身体診察の意義と役割、得られる情報の違いや限界などを理解した上で、両者を組みあわせた包括的な患者理解ができるように理解する。身体診察を実施するにあたり、患者の不安をやわらげ、信頼関係の構築に役立つコミュニケーションについて理解を深める。
		3) 臨床推論につなげる医療面接	収集した情報をもとに、臨床推論の考え方に基づき、解剖学的部位と病理学的変化を組みあわせて病態を推測できるように理解する。具体的には、発症のスピードとトレンドを組みあわせる、緩和増悪因子から病変部位を同定する、一元的に考えることで診断を絞り込むなどのアプローチを用いた、実際の診療の流れを理解する。

9

臨床推論

概要／ねらい

症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学習し、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。

単元		項目	履修する内容
1	診療のプロセス	1) 診療のプロセス	健康問題を解決するために提供される各種検査・画像診断・治療の過程と、これに関わる職種および各職種が提供する医療サービスの役割を理解する。また、対象者の最善なアウトカムを目指すためのガイドラインの活用や、クリニカルパスとPDCAサイクルの運用について理解する。
		2) 臨床疫学の理論	根拠に基づいた医療 (Evidence-based Medicine: EBM) の基盤となる臨床疫学について、基本的な概念・知識などやEBMと臨床疫学の関係を理解する。また、ビッグデータの活用による臨床研究や政策研究の可能性について理解する。
2	臨床推論の理論	1) 臨床推論の理論	臨床推論 (Clinical Reasoning: CR) の意義、種類、選択などを理解するとともに、実践する上での思考や過程を理解する。また、理学療法における主として動作に焦点をおいた臨床推論について理解する。
3	臨床検査の理論	1) 各種臨床検査の理論 (心電図／血液検査／尿検査／生理機能検査／その他)	臨床において身体所見の収集とともに実施される代表的な生理学的・生化学的検査の意義および測定値の解釈による病態把握を理解して、治療の判断や計画立案、運動負荷やリスクの考慮などを踏まえた臨床推論への展開を理解する。
		2) 画像検査の理論	臨床において患者の病態およびその変化を正確に把握し、機能回復の予後や適切な治療計画を立案するために用いられるレントゲン画像・CT・MRI画像・超音波エコー画像について、その理論と意義、組織の状態を考慮した臨床推論への展開を理解する。

10

運動学習

概要／ねらい

運動学習の定義とその特性、分類について学習し、臨床応用における考え方について理解する。

単元		項目	履修する内容
1	運動の制御と運動学習	1) 運動の制御	ベルンシュタイン問題など古典的な運動制御の諸理論から仮想軌道制御仮説まで学習し、関節スティフネスの運動制御上の意味をバイオメカニク的な視点を含めて理解する。その上で、計算論的神経科学に基づく内部モデル制御について学習し、仮想軌道制御との比較を考察できるように理解を深める。
		2) 運動学習の定義と特性、分類	運動学習の定義と研究の歴史を整理・理解し、運動制御理論を踏まえて、主に計算論で定義される教師あり学習 (小脳可塑性と内部モデルによるフィードバック誤差学習)、強化学習 (主に大脳基底核が関与する報酬による学習)、教師なし学習 (大脳皮質での Use-dependent plasticity) について理解する。
2	運動学習の臨床応用	1) 運動学習と臨床応用	運動学習療法とも言われるCI療法 (Constraint-induced movement therapy) の理論と具体例をもとに、運動学習理論の臨床応用について理解する。また、上記3つの運動学習則および Transfer (学習の転移) と臨床における運動障害や治療との関わりについて、具体例をもとに理解する。

11

人事管理・労務管理・職場コミュニケーション

概要／ねらい

臨床現場における人事労務管理に必要な基本的知識やスキルを習得する。また、臨床現場における人間関係に必要な基本的知識やスキルを習得する。

単元	項目	履修する内容
1	人事労務管理	1) 人事労務管理の基礎知識と課題 人事管理・労務管理の基礎知識を習得する。労務管理は関連法令を踏まえ、健康的に働くために何をすのか理解する。人事管理は今あるスキルを十分に発揮できるよう、また、その結果でやりがいを感じてもらおうためどのような制度や対処をするのか、事例を用いて理解する。
	2) 人材育成と組織運営に必要な知識 組織は人がいなければ構成できない。そのための人材育成の方法や仕組みづくり、人材育成の体系づくりの基礎を学習する。また、個人の成長だけではなく、個人の成長が組織運営にどのように寄与するのかを知ることにより、個人の育成と組織運営の関連性を理解する。	
2	職場コミュニケーション	1) 人間関係管理 職場におけるコミュニケーションのとり方を学習する。一対一のコミュニケーション、メンバー間コミュニケーション、上司と部下とのコミュニケーションと非言語コミュニケーションの影響度など、よりよい職場にするための人間関係づくりについて理解を深める。
	2) ノンテクニカルな質の管理 社会人、組織人としてどの組織でも必要なノンテクニカルスキルを整理し、その必要性の理解を深め、理学療法士としての成長を踏まえたノンテクニカルスキルの習得について学習する。社会人としての基礎力をベースにリーダーとして必要なスキルを体系的に身に着けるための手法などを習得する。	

12

足病変予防の理学療法（共通編）

概要／ねらい

運動学・運動力学の基礎に加え、足病変や創傷形成予防に関わることを実践的な視点から習得する。

単元	項目	履修する内容
1 足部の正常な機能と構造	1) 足部の解剖学、運動学	足関節および足部の解剖・機能・構造・運動学を整理し、理解する。足部は多くの骨・関節から構成された複合体であることを理解し、巧みな形態変化と運動機能をもつ一方、その複雑さにより、一部の組織損傷や欠損がある場合、近接する骨・関節・筋肉・腱・靭帯に影響が生じやすい構造であることを理解する。
	2) 足部の機能評価	足部の機能評価は関節可動域・筋力・感覚・足部アーチ・下肢アライメントなどの基本的評価を整理し、理解する。また、ICTデバイスを用いて立位・歩行の解析を行う足圧評価を理解し、足病変治療（予防）における評価の重要性と理学療法士の役割を理解する。
2 足病変の疫学、症状、病態生理	1) 代表的な足病変	医療的措置が必要となる足病変として、足底胼胝・潰瘍・壊疽・足変形（外反母趾・扁平足・開長足・シャルコー足・足趾変形・リウマチ変形）がある。糖尿病足病変や重症下肢虚血肢を起因とし施行するデブリードメントや、小切断術後の足部形態変化とその対応について理解を深める。
	2) 足病変の病態生理	下肢虚血・組織欠損・神経障害・感染などの肢切断リスクを持ち、治療介入が必要な包括的高度慢性下肢虚血（CLTI：chronic limb-threatening ischemia）に対し、WIFI分類を用いた病態把握・リスク評価と治療選択について理解する。また、治療期・再発予防期と病期別の理学療法士の関わりを理解する。
3 足病変の予防	1) 足病変予防のための運動療法	足病変予防は三次予防に該当し、足病治療過程において可及的早期より理学療法士が介入し社会復帰・再発予防に努める取り組みについて理解する。具体的な運動療法として、創部の保護と荷重コントロールについて、実際の臨床場面を通じて理解する。
	2) 足病変予防のための装具療法	足病治療期から再発予防期に用いる治療用装具と理学療法士の関わりを理解する。除圧フェルトやプラスタゾート（衝撃吸収材）を加工する工程や、生活環境に適応をする下肢装具・靴型装具の選択と装用指導を義肢装具士と協働して行う一連のプロセスを理解する。

認定・専門理学療法士 指定研修カリキュラム シラバス

発行日：2021年12月28日 初版発行

発行：公益社団法人日本理学療法士協会

〒106-0032 東京都港区六本木 7-11-10

TEL：03-6804-1440 FAX：03-6804-1405